

Field/分野 Others (translation)

日英対照から考える翻訳の授業

Teaching translation from contrasting Japanese and English

谷村 緑 (京都外国語大学)

仲本康一郎 (山梨大学)

1. 発表の目的

本発表では、英日翻訳の授業実践報告を行う。英日翻訳は、英語を自然な日本語に直す作業をいう。このような英日翻訳をカリキュラムに組み込んでいる大学は少なくないと思われるが、手軽に使用できる初心者向けの適当な教材は少ない。本稿では、日本語と英語の表現の違いに焦点を当て、翻訳の際に問題となるような語彙や構文を使用して作成した教材を基に、どのように授業を行ったかを報告する。

2. 先行の翻訳の教え方

英日翻訳において、注意すべきことは二つある。第一は、原文と翻訳における内容の等価性を保持することであり、第二は、いかにして目標言語の自然な表現に翻訳するかということである。前者は、ひとえに翻訳者の読解力にかかっている。特に、詩や小説などの文学作品の場合、作者の意図や時代背景の理解が重要な要因となる。こういった読解力の養成は、主として英文学の授業で行なわれる。

これに対し、後者の表現の自然さは言語の問題とされ、現段階では二つの指導法がある。第一は、日英対照言語学の授業であり、名詞中心と動詞中心、スル表現とナル表現、無生物主語等、両言語に特有の表現に対する気づきを高めるものである。第二は、安西の翻訳英文法に代表される実践的な翻訳練習であり、自己の翻訳体験から得た方法を文法項目別に練習させるものである。今回の試みはこれら二つの融合といえる。

3. 授業の目標と方法

今回の授業では、先行の翻訳指導のうち後者の言語的な指導に焦点を当てた。授業の目標は、翻訳の際に問題となる語彙や構文に慣れ親しみ、自然な日本語に訳せるようになることである。その際、従来のように構文間の翻訳を項目別に提示するだけでなく、対照言語学の知見に基づき、表現の背後にある発想の違いに注目させた。また、日→英翻訳や日本語学の成果も参照し、待遇表現等の語用論的違いにも着目させた。

具体的には、英語専攻の短大2年生35人を対象に、授業毎に日英語で表現が異なる構文を紹介し、日英語の差異や翻訳のコツを指導した後に練習問題を課した。また、最後に、内容理解の確認のために課題を提出させた。取り上げた構文は、(1)モノとコト (2)スルとナル (3)テンスとアスペクト (4)無生物主語 (5)能動態と受動態 (6)肯定と否定 (7)条件表現 (8)接続表現 (9)待遇表現 (10)部分否定 (11)代名詞である。

9月5日(土) 11:20-12:20 OTH7 C31

4. 具体的な課題の紹介

具体的な課題としては、対訳付きの英語の小説、歌、映画のトランスクリプト等から学習項目に該当する構文や語句を探し出し、①学習項目、②英文とその対訳例、③説明、④出典の4つの事項を挙げるよう指示した。10問中6問以上の正答を合格とし、それ以下の学生には再度やり直しを提出させた。

以下に教師側で作成した課題例を2つ挙げる。

(1) ① 学習項目 「スルとナル」

② 英文とその対訳例

“I have some papers here,” “僕、ここに書類を持ってるんだがね……”

③ 説明：英語の所有表現は日本語では存在表現に置き換えるほうが自然である。この場合、「ここに書類があるんだがね」のように表現すべきである。また、日本語では代名詞は使用せず「僕」も省いた方がよい。

④ 出典：Conan Doyle. The Gloria Scott. 三上於菟吉訳。『グロリア・スコット号』
<http://www2.nict.go.jp/x/x161/members/mutiyama/align/htmlPages/scott-0.htm>

(2) ① 学習項目 「受動態と能動態」

② 英文とその対訳例

Thousands of Russian workers were killed or injured building the Moscow subway. 何千というロシアの労働者が、モスクワ地下鉄建設の際に殺されたり、怪我をさせられたりしたのである。

③ 説明：英語の受動態の表現を日本語に訳す際、能動態にしたほうが自然なことがある。この場合、「殺されたり、怪我をさせられたり」よりも「死んだり、怪我をしたり」の方が適当である。

④ 出典：Bob Black. THE ABOLITION OF WORK. 高橋幸彦訳。『労働廃絶論』
<http://www2.nict.go.jp/x/x161/members/mutiyama/align/htmlPages/abolition-0.htm>

5. まとめ

本発表では、日英語の表現の違いに焦点を当てた初心者向けの日英翻訳の授業について紹介した。特に、従来の個別の文法指導と異なる観点として、対照言語学や語用論の成果を積極的に導入し、個別の表現の相違だけでなく、その背後にある発想の違いに着目させた。そうすることで、学習者は翻訳における処方的な言い換えを超えた、より応用性の高い翻訳の技術の習得へと進むことができるものと期待される。

主な参考文献

安西徹雄 (1982) 『翻訳英文法』 バベル・プレス

安西徹雄 (1996) 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 バベル・プレス

平子義雄 (1999) 『翻訳の原理』 大修館書店

木村哲也 (1993) 『英語らしさに迫る』 研究社出版

水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』 くろしお出版